

牛久：学校周辺に見る自然

第36号 牛久二小

2020年7月25日発行

＜ 夏（梅雨）の生きもの観察 ～その他の生きもの＞

こんにちは。牛久二小4年生との夏の生きもの観察、今回はその他の花や虫などを紹介（しょうかい）します。



ヒマワリの蜜（みつ）を吸（す）う、ヒメアカタテハ。前足（たいか）が退化（たいか）して、一見（いつけん）、4本足（よっぴん）に見える。

まず、花（はな）に来ていたチョウ（ちょう）から。1組（ひと）さんが教室（きょうしつ）にもどる時（とき）に、ヒマワリ（ひまわり）の蜜（みつ）を吸（す）うチョウ（ちょう）を見つ（み）けてくれま（た）した。ヒマワリ（ひまわり）はこれ（こ）で1つ（ひとつ）の大き（おほ）きな花（はな）に見（み）えますが、よく見（み）るとタンポポ（たんぽぽ）同様（どうよう）、た（た）くさんの花（はな）の集（あ）まりであるこ（と）が分（わ）かりま（す）。外側（そとがわ）に大き（おほ）きな花（はな）弁（べん）をも（も）った舌（ぜつじょう）状（か）花（はな）が並（なら）び、虫（むし）を誘（さそ）いま（す）。そし（て）内側（うちがわ）にはた（た）くさんの小（こ）さな筒（とう）状（じょう）花（はな）（管（かん）状（じょう）花（はな））がび（び）っしりつ（つ）ま（ま）って、外側（そとがわ）から順（じゆん）に咲（さ）いてい（い）きま（す）。



右上（うわした）の写（しゃ）真（しん）で、筒（とう）状（じょう）の花（はな）から飛（と）び出（で）して二（に）ま（ま）たに分（わ）か（か）れてい（い）るの（の）が雌（め）しべ（べ）です（す）よ。こ（こ）うして確（た）実（じつ）に受（う）粉（ふん）も（も）行（い）われ、た（た）くさんのタネ（たね）（果（か）実（じつ））がで（で）きるわ（わ）けです（す）。花（はな）に（に）来（き）てい（い）たの（の）は、ヒメアカタテハ（ひめあかたては）。タテハ（たては）チョウ（ちょう）科（か）のな（な）かま（ま）な（な）ので、足（あし）が一（いつ）見（けん）4（よ）本（ぽん）に見（み）えま（ま）すね（ね）。

シロツメクサ（しろつめくさ）には、小（こ）さなシジミ（しじみ）チョウ（ちょう）が来（き）てい（い）ま（ま）した（た）。ヤマトシジミ（やまとしじみ）です（す）。細（ほそ）いストロー（すとろー）を（を）の（の）ぼ（ぼ）して、蜜（みつ）を吸（す）って（て）い（い）ま（ま）した（た）ね（ね）。

シロツメクサ（しろつめくさ）の蜜（みつ）を吸（す）う、ヤマトシジミ（やまとしじみ）。

その他（その他）、サルスベリ（さるすべり）も咲（さ）き始（はじめ）め、その根（ね）も（も）とでマンリョウ（まんりょう）がか（か）くれ（る）よ（よ）うに咲（さ）いてい（い）ま（ま）した（た）。大輪（たいりん）キンシバイ（きんしばい）は、5月（ごがつ）終（お）わり頃（ころ）から（か）ず（ず）と咲（さ）いてい（い）ま（ま）すね（ね）。



サルスベリ（さるすべり）の根（ね）も（も）とで咲（さ）くマンリョウ（まんりょう）（左（ひだり））と、花（はな）期（き）の長（なが）い大輪（たいりん）キンシバイ（きんしばい）（右（みぎ））。



側溝に落ちていて、たわしで救出したアブラゼミ（左）と、セミの抜けた穴（右）。

校舎うらの側溝に、アブラゼミが落ちていました。「足が動いている!」というので、近くのタワシですくい上げました。うまく飛べるようになったのでしょうか。北側の桜の根もとに開いた小さな穴はセミの抜けた穴で、これからもっと増えるでしょう。ぬけがらを見つけた子もいましたね。



手のひらで丸まったダンゴムシ（左）と、そのアップ（右）。

ダンゴムシも、人気者です。手のひらに乗せてころがし、「丸まったよー」と見せてくれました。ダンゴムシは敵に襲われた時に身を守るため丸くなるそうですから、コロコロ転がされることで襲われたと判断したのでしょうか。ところでダンゴムシは、足6本じゃないから昆虫ではないですね。では、足は何本あるでしょう？ 答えは14本。ただし生まれたばかりは12本で、大人になるまでに2本増えるのだそうです。不思議だね。乾燥に弱く、落ち葉や石のうらなど湿ったところでよく見つかります。



側溝を移動していたオオミスジコウガイビル（左：中国原産でプラナリアに近いなかま）と、そのアップ（右）。



セグロアシナガバチ（左）と、オオチャバネセセリ（右）。

側溝にいたオオミスジコウガイビルには、びっくりしましたね。一番長いので、1メートル近くありました。ヒルといっても血を吸うヒルのなかまではなく、プラナリアに近いなかまです。

その他、セグロアシナガバチとオオチャバネセセリは、写真だけ。 【理科支援員：宮内】